

はしめ、「女性に参院」といふ価値観から引きこもりと周囲きづらさ「気持ち偏見にさう事例が取り引きこも様さ、本人雑さなどがほのかにの、依然、い。ただ、間の存在、が対等な立重要であつた。18日朝刊4面に続報があるものさうに継続した取材

弊社社長のエッセイ

『思い出の扉』

(ホームページ掲載の)

一部が中日新聞・東京新聞の

社説に引用されました。

※この批評は最終版を基にしています。 2016.9.25
山 直には一地域の人々が顔の見える関係を築くため
神社が子 出では一人 互いに助 たい」と 紹介してい 筆者はこの 言の関わり いた時期が 写宗教施 けり組みの ていきた 大教授)

トランプ候補「飛行機を降りる直前にニューヨークで爆弾が爆発したと聞いたが、詳細は分からない」
クリントン候補「そうね、こういう時は事実を突き止めることが重要よね」
十八日朝(米国時間)、CNNのニュース番組は、ニューヨーク・マンハッタンで起きた爆発事件に対する米大統領選の両候補者の反応をこう紹介し、トランプ候補が何も分からないうちに「爆弾」と決めつけたのは軽率だったのではないかとキャスターが指摘した。
米大統領選は終盤戦に入り、どちらの候補が米国の最

高指揮官としてふさわしいのかその一言一句が注目されており、トランプ候補はこの事件で手痛い失点を喫したので

低下する米メディアの信頼

今回の米大統領選挙で米メディアの特定の候補者への肩入れが目立つことは、七月三十一日のこのコラム「マスコミと大統領選」で新聞を例に紹介したが、放送も特定の候補者への支持を隠そうとした。FOXニュースに自らの番組を持つ保守派の論客ジョン・ハニティ氏は、トランプ

72年以来初の40%割れ
ギャラップでは、一九七二

大統領が辞任に追い込まれた余韻の残る七六年の72%だった。 今回の調査で顕著だったのは、共和党支持者のマスコミへの信頼が14%と民主党支持者を下回ったことだ。これは保守系の人々の「主要マスコミはトランプ候補の揚げ足取りばかりしている」という不満を反映しているとギャラップは分析している。
米国のマスコミは選挙報道に熱を上げ過ぎて、自ら墓穴を掘っているようにも見えるのだが…。
(木村太郎、ジャーナリスト)
2016.9.25

先の参院選でも際だった高齢者と若者の投票率格差が気になります。シルバー社会を支える若者たちは少子化の一途。その先に輝く未来はあるのかと。

一九六〇年三月二十二日。九州・天草の中学校を卒業したの少年が乗ったのは、名古屋行き専用の集団就職列車でした。

「病弱な母もいて苦しい実家の家計を早く楽にしたい」と、夢を抱いて旅立った竹森要少年も今や七十一歳。以下ご本人の回想録からの引用です。へ汽車の中はデッキから通路まで若者達がひしめき合い、混雑の極みであった

へ汽車が「ボーツ」と鋭い汽笛を鳴らし、「ガタン」と動き始めた。思わず、これから歩む人生の旅路を思い、身震いするほどの快い緊張感に襲われた

描ける夢があったから
波瀾万丈の末、現在千葉県で金

2016・9・25

社説

シルバー社会と金の卵

週のはじめに考える

属加工業「竹森工業」(社員八十人)を率いる竹森社長は、社のホームページで主に若い社員向けにと回想録の連載を始めました。この回の見出しは「金の卵時代」
ちよつと高度成長期、豊かな社会の貴重な支え手として、団塊の世代前後の少年少女が「金の卵」と重用された時代がありました。社会も若者を応援し、ささやかでもそれぞれに夢が描けた時代。その半面現実には、疲労と挫折、あるいは望郷の涙にくれた夜も幾度となくあったはずだ。

竹森少年もその一人
でした。けれども「今の若者と違って昔は、描ける夢があったから頑張れた」(竹森社長)。そつう若い夢や涙が染み込む礎の上に、戦後日本の繁栄は築かれたのでしよう。
半世紀の時が過ぎ、繁栄は日本人に長寿の幸せをもたらした。そ

発表した年齢別投票率で、五歳区分の最低は二十代前半の33%。対する最高は七十代前半の74%と二倍以上の開きでした。シルバー民主主義と表裏をなす若者の政治離れの現実です。だが結果は、年金財政などの借金を際限なく次代に先送りする不条理。これで若者に夢が描けるはずはありません。結婚し子どもを産み育てる夢も

生きものとしては、子どもは自分のいのちを続けてくれる大切な存在。皆次世代へと続くよう懸命に生きており、それを支えるシステムがある。イクラやタラコをみると、この無数の卵あつてのサケやタラコなのだとため息が出る。へ(人間の少子化については)各人の生き方として子どもを持たないという選択を非難はできない。しかし、いのちをつなぐという発想のない社会には問題がある。十分な保育所設置など当面の施策はもちろんな必要だが、社会のありよつこの根本が変わる必要がある

あとには誰が窮状を高齢者に知らしめ、政策への理解を取り付けるか。その役割こそが日本政治の歴史的な正念場となるのでしよう。政治はむろん変わらねばならないが、政治を選択するのは私たち国民です。代々の「金の卵」が輝けるよつ、政治の向きを変えていくことは、次世代に対して、私たち皆が背負う責任でもあります。